



2016年1月期
第3四半期決算説明資料

ベステラ株式会社
東証マザーズ(証券コード:1433)

本資料についてのご留意事項

- 当該資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営を取りまく様々な環境の変化により、予告なしに変更される可能性がございます。
- 本発表において提供される資料ならびに情報の中には「見通し情報」が含まれております。これらの情報は、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実際には異なる結果となる不確実性を含んでおります。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。
- 2014年1月期第3四半期、2015年1月期第3四半期、2016年1月期第3四半期の財務数値につきましては、監査法人の四半期レビューおよび監査を受けたものではありません。

目 次

会社概要	4
決算概要	12
成長戦略	21

会社概要	4
決算概要	12
成長戦略	21

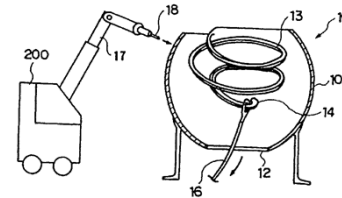
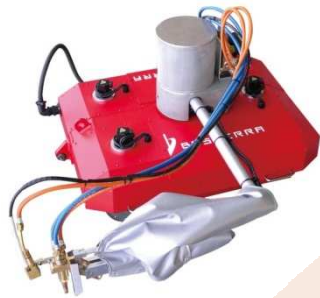
会社概要

商号	ベストセラ株式会社 BESTERRA CO.,LTD
事業内容	プラント解体工事、その他関連事業
所在地	本社：東京都墨田区江東橋四丁目24番3号 千葉事務所：千葉市中央区川崎町1番地 西日本事務所：広島県福山市南手城町三丁目10番27号
設立	1974年2月20日
資本金	390,280,000円
代表取締役	吉野佳秀
従業員数	44名（2015年12月10日現在）

会社の沿革



- 2015年9月 東証マザーズ上場
- 2015年1月 プラント構造計測に特化した3D計測サービスに参入
- 2013年1月 人材不足に対応するため人材サービスに参入
- 2010年4月 溶断ロボット「りんご☆スター」開発
- 2007年9月 火力発電所等の「ボイラの解体方法」の特許取得
- 2004年11月 特定建設業許可取得
- 2004年7月 「リンゴ皮むき工法」の特許取得
- 1974年2月 「ベステラ株式会社」設立 一般建設業許可取得



本社ビル



ビジネス コンセプト(基本的概念)

1

つくった人には壊せない

私たちは、「壊すときには造ったときの逆をやればよい」という思い込みに『NO!』と言うことからスタートしました。建造のプロセスを単に逆にたどるのではなく、まったく新しい視点でプラント解体を発想する。そして、その発想を実際の工事を通じて検証をおこない、新たな技術・工法として確立し、更には特許工法という形で完成させてきました。

2

プラント解体に特化したオンリーワン企業

当社は約40年間、製鉄、電力、ガス、石油などの高い安全性と高度な技術力を必要とする鋼構造物のプラント解体工事に特化して、事業を展開してきました。プラント解体工事において、必須と言える特定化学物質、PCB、アスベスト、ダイオキシン、土壌汚染などの環境関連対策工事の実績を積み重ねています。

基幹産業である重厚長大なプラント解体のリーディングカンパニーとして、こうした社会的ニーズにお応えすることで、自らの責任を全うし、社会貢献に取り組んで参ります。

企業理念、行動規範

企業理念

柔軟な発想と創造性、それを活かした技術力により地球環境に貢献します。

行動規範

プロとしての責任を果たします。

我々は常に新しい技術を生み出し、「安全を何よりも優先」し、「より早く、より安く、より安全に」を合言葉に、さらに安心を加えて、お客様に提供します。



ガスホルダー(リンゴ皮むき工法)



火力発電所(リンゴ皮むき工法)

ビジネスモデル(事業系統図)

- 1 大型プラント解体の要の役割
エンジニアリング(提案・設計・施工計画)
マネジメント(監督・施工管理)
- 2 実際の解体工事は、外注先が行い、
当社は主に現場の監督・施工管理を行います。
- 3 したがって、プラント解体の工法・技術を
コア・コンピタンスとしています。

(持たざる経営)
工事用重機や工事部隊を保有しません。
→資産保有リスクを回避

材料などの仕入・生産取引は存在しません。
→在庫リスクを回避



プラント解体トータルマネジメント

プラント解体の事前調査から解体、廃棄物処理までを一貫して行うプラント解体トータルマネジメントを行っています。

1	調査	・行政、自治体への法制対応
2	各種申請 解体見積	・独自の特許工法の提供 ・最適な工事設計 ・多様な工事に対する見積書の作成
3	工事施工	・施工管理：現場重視の戦略、当社従業員が常駐 ・最適分担：優良な協力会社と連携 ・最適分担：工事種類に応じた工事分担を決定
4	廃棄物処理 補修・改修工事	・情報網：産業廃棄物処理会社との連携 ・補修、改修工事のフォロープレゼン



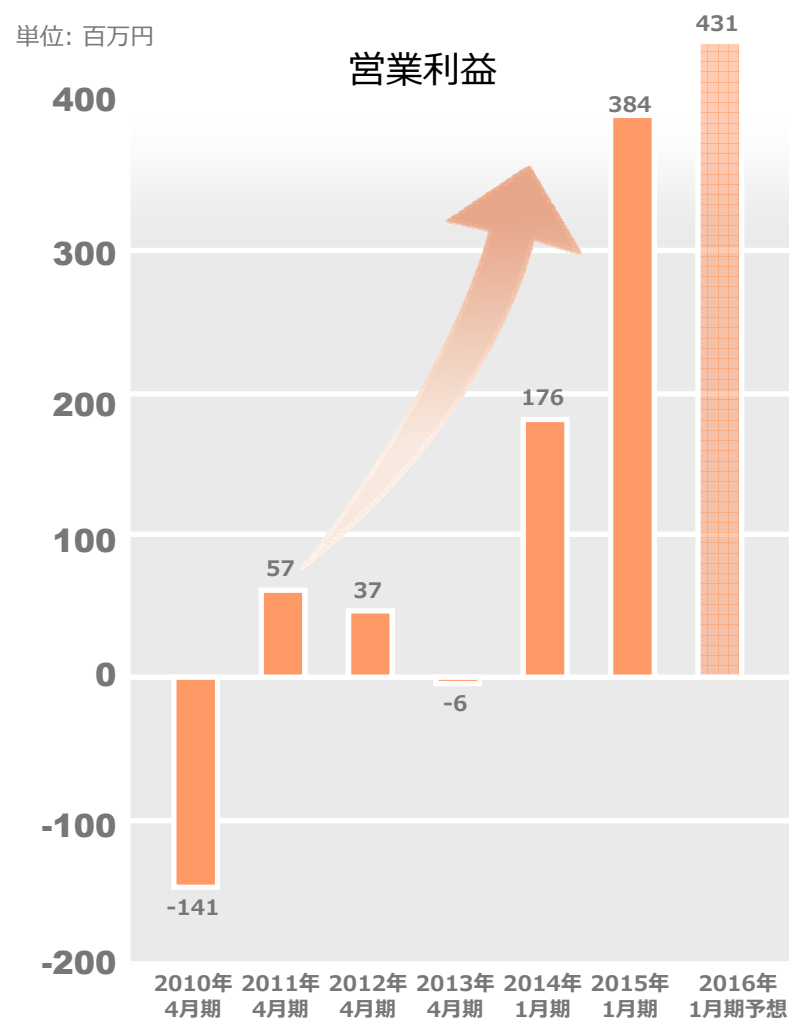
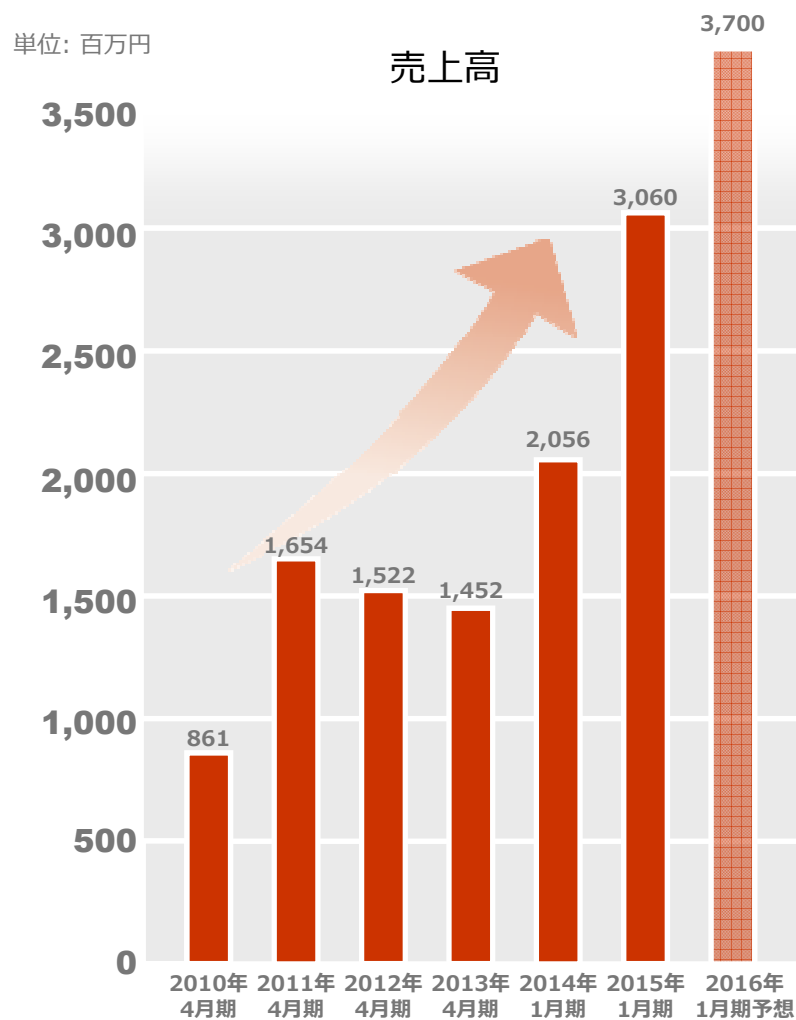
顧

客

業績の推移

2014年1月期以降は売上高が急成長し、利益成長も伸ばしております。

※ 2014年1月期は9カ月の数値



会社概要	4
決算概要	12
成長戦略	21

損益計算書: 第3四半期 (2016年1月期)

着実な工事实績の積み上げで増収、人員採用や上場費用等により減益

売上高：前年同期比53.2%増 (843百万円増)

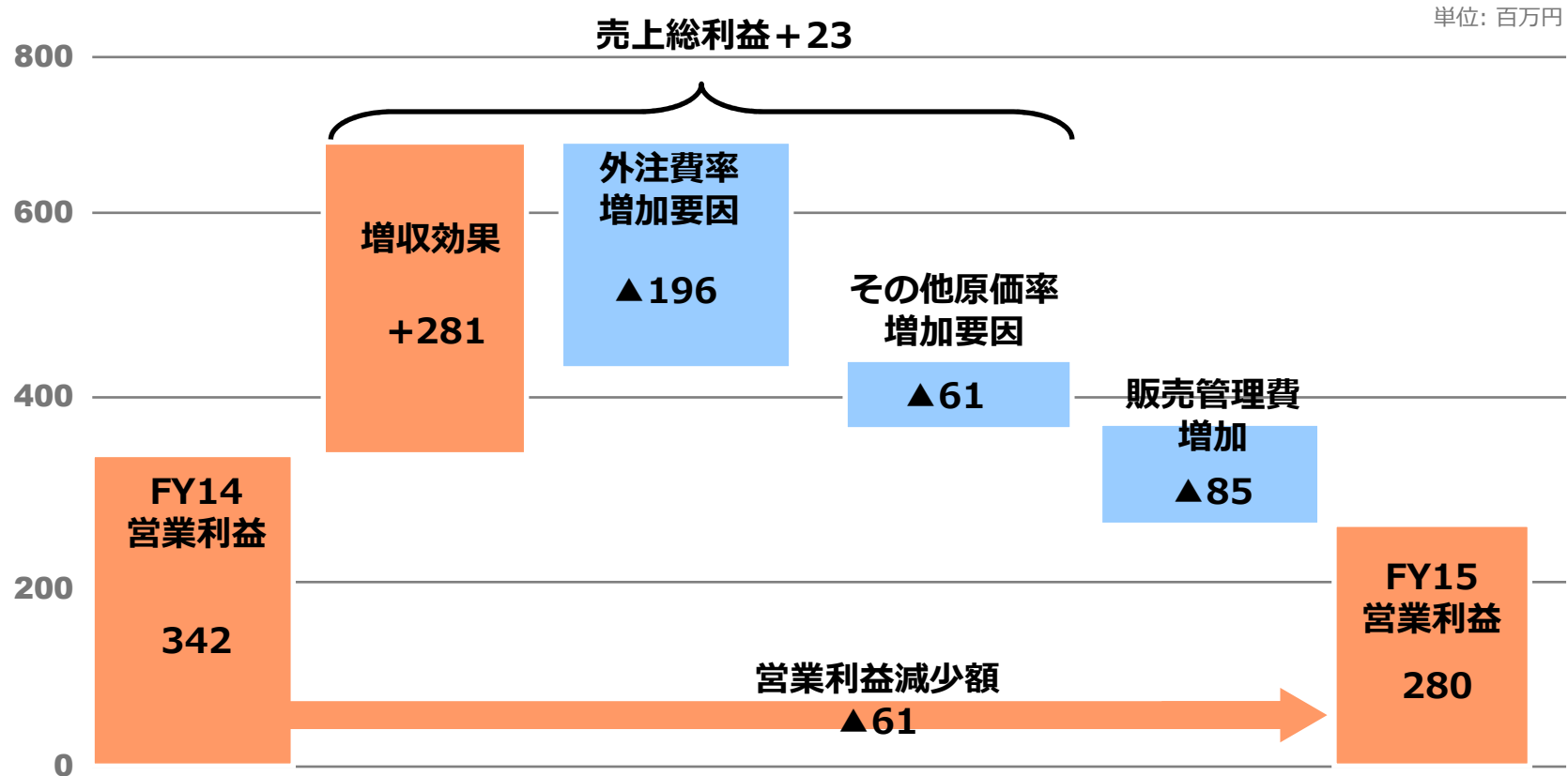
営業利益：前年同期比18.1%減(61百万円減)

単位: 百万円

	2016年1月期 第3四半期累計	対売上高 比率	前年同期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	2,430	-	1,586	843	+53.2%
売上総利益	553	22.8%	530	23	+4.5%
営業利益	280	11.6%	342	▲61	▲18.1%
経常利益	296	12.2%	345	▲49	▲14.2%
四半期純利益	189	7.8%	212	▲22	▲10.8%

営業利益の増減要因分析

営業利益は前年同期比61百万円の減額となりました。売上増加に伴う売上総利益の増加が23百万円であった一方、人員採用や3D計測機器購入等による販売費一般管理費の増加85百万円が減額要因となりました。当第3四半期の売上総利益率は22.8%となっております。



販売費及び一般管理費：第3四半期（2016年1月期）

事業拡大により販管費が増加
前年同期比45.7%増（85百万円増）

単位：百万円、%

	2016年1月期 第3四半期累計	前年同期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	主な増減要因
給与手当	77	56	21	39.0%	事業拡大のための 人員増加
支払手数料	18	11	7	66.9%	上場のための費用 増加
広告宣伝費	7	0	7	—	環境展への出展費 用等の増加
減価償却費	16	5	11	208.0%	3D計測機器及び 溶断ロボット等
その他	155	115	39	33.9%	採用費等の増加
合計	273	187	85	45.7%	

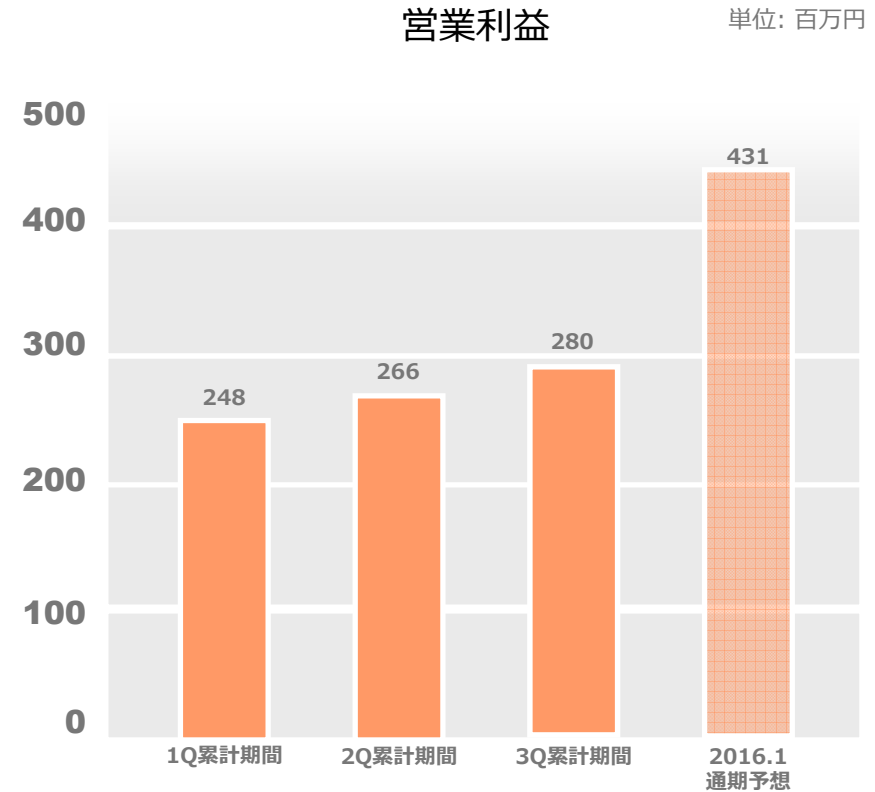
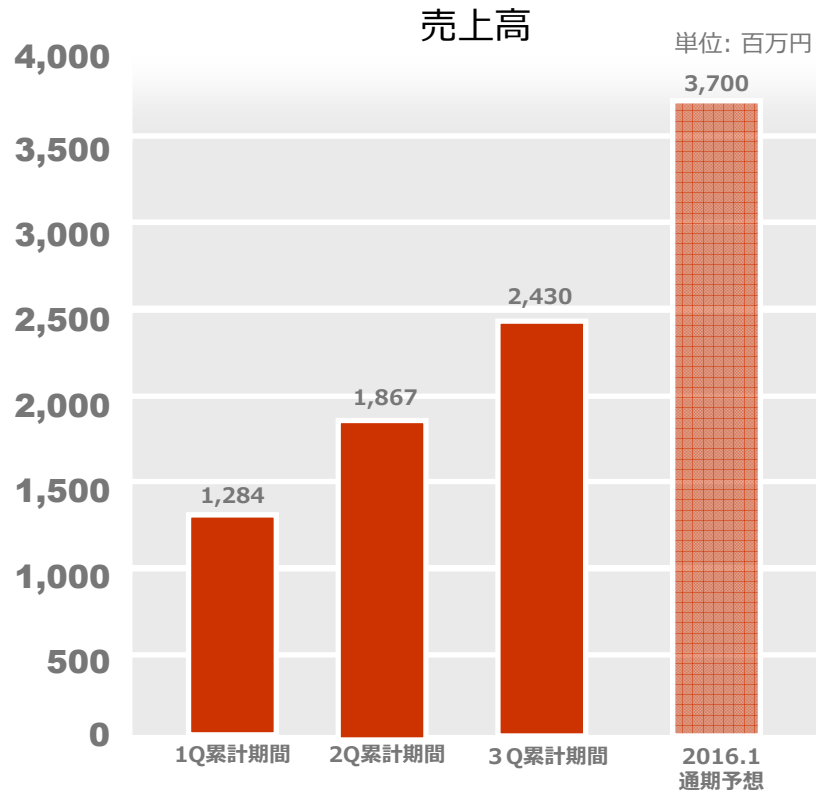
貸借対照表:第3四半期末(2016年1月期)

単位: 百万円

	2015年1月 期末	2016年1月期 第3四半期末	増減額	主な増減要因
流動資産	2,089	2,269	180	大型工事の完了による 現金預金および電子記録 債権の増加によるもの
(うち現金預金)	598	900	301	
固定資産	385	416	30	3D計測機器等の購入 によるもの
流動負債	1,217	632	▲585	未成工事受入金の減少 によるもの
固定負債	135	138	2	退職給付引当金の増加 によるもの
純資産	1,122	1,915	792	新株発行による資本金 及び資本準備金の増加
総資産	2,475	2,686	210	

四半期累計の推移

通期業績予想達成に向けて順調に進捗しています



当社の売上高は、顧客(施主)の設備投資計画に応じた季節性があります。第1四半期および第4四半期に計上される割合が高くなる傾向があります。

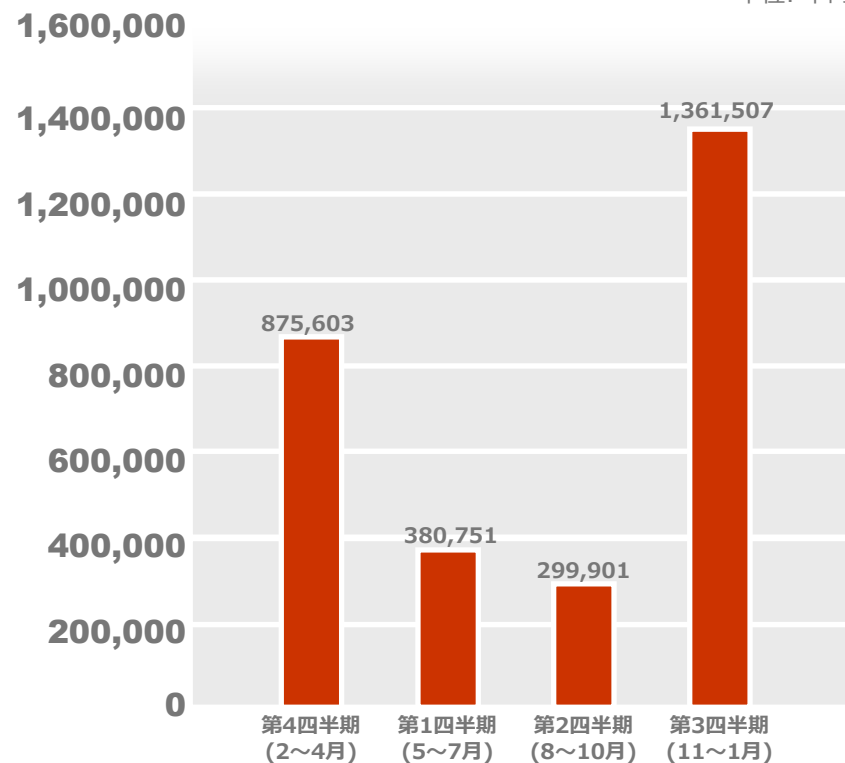
(参考)過去の四半期完成工事高実績

当社の完成工事高は第4四半期（11月～1月）に計上される割合が高くなる傾向があります

2013年4月期第4四半期および2014年1月期

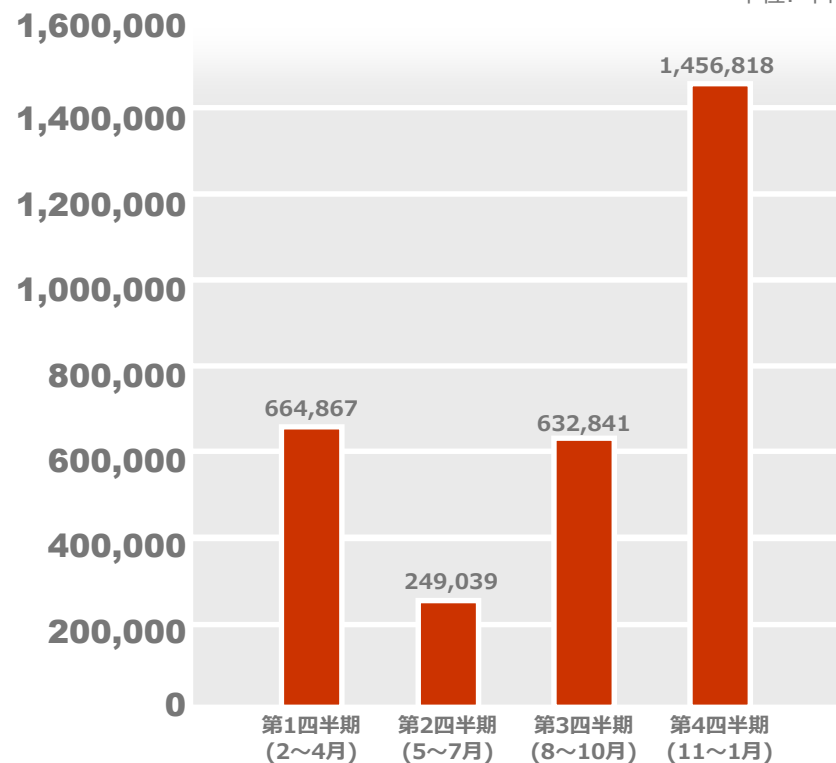
完成工事高

単位: 千円



2015年1月期 完成工事高

単位: 千円



業績進捗状況：第3四半期（2016年1月期）

単位：百万円

	2016年1月期 第3四半期累計	2016年1月期 通期予想	進捗率
売上高	2,430	3,700	65.7%
売上総利益	553	862	64.2%
営業利益	280	431	65.1%
経常利益	296	439	67.5%
当期（四半期）純利益	189	254	74.5%

受注状況: 第3四半期 (2016年1月期)

- 受注工事高、受注残高とも順調に推移しております。
- 当第3四半期末は過去最高の受注工事高および受注残高となりました。

単位: 百万円

	2014年1月期 第3四半期 累計期間	2015年1月期 第3四半期 累計期間	2016年1月期 第3四半期 累計期間
期首繰越工事高	1,031	1,628	1,642
受注工事高	2,638	2,751	3,874
完成工事高	2,042	1,546	2,381
期末繰越工事高 (受注残高)	1,628	2,833	3,135

会社概要	4
決算概要	12
成長戦略	21

当社の強み

1

優良な顧客基盤

製鉄、電力、ガス、石油等の大手企業のエンジニアリング子会社を中心とした優良な顧客基盤を構築しています。

2

豊富な工事实績に基づく効率的解体マネジメント

約40年間のプラント解体工事实績に基づくプラント解体トータルマネジメントを提供しています。

3

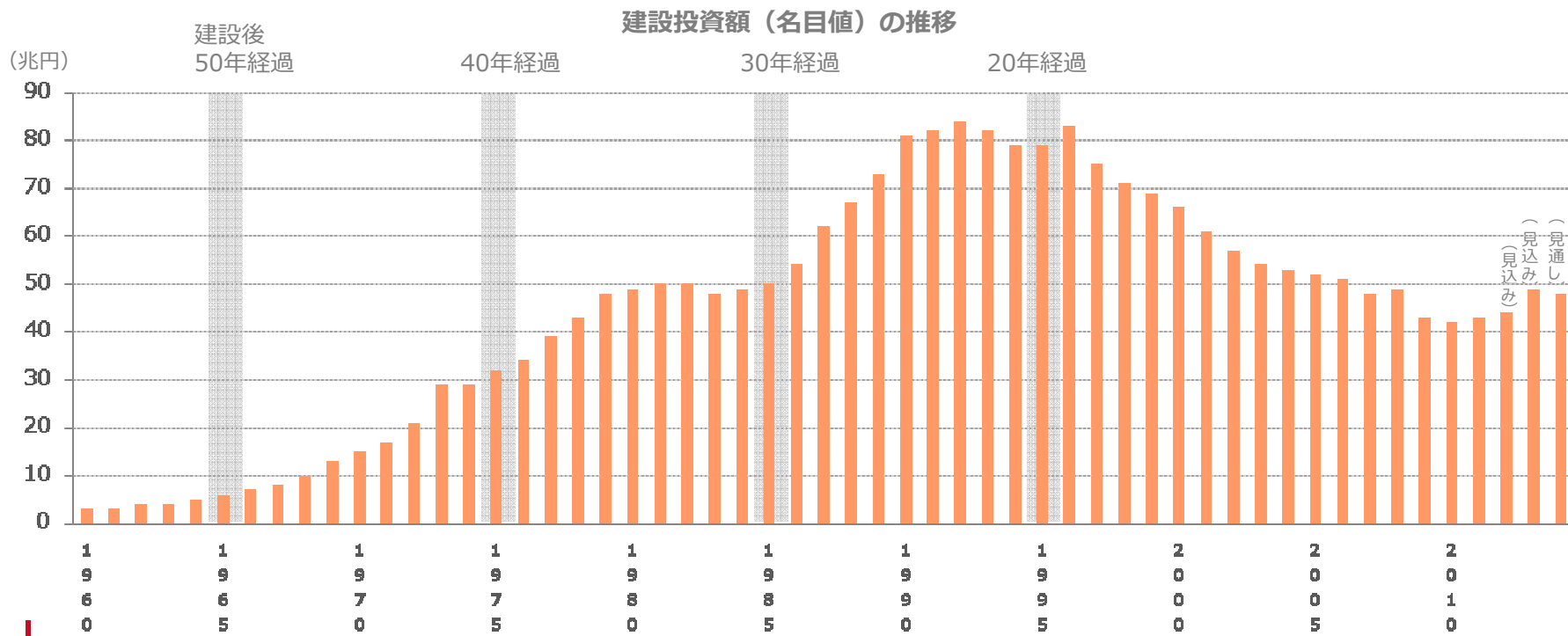
特許工法等の知的財産

環境対策工事等に根ざした様々な技術やノウハウは、顕在的または潜在的に知的財産としての強みを持っております。特筆すべき知的財産は、解体工事会社として他社に類のない数を保有する特許工法です(取得済14件、申請中5件)。また、発生材の再資源化に関する豊富な知識も有しています。

建設投資額の推移

新設工事が減少する中、プラント解体の市場規模は拡大すると考えられ、ますます当社の技術やノウハウを提供できる機会が増えていきます。

- 1960年代の高度成長期以降に建設されたプラントが急速に老朽化します
- 今後20年間で建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に高くなります
- 企業の再編、海外移転等、リストラクチャリングにより余剰設備の廃棄が増加します



プラント解体事業のトピック

プラント業界を取り巻く外部環境の変化も当社の追い風になっております。

1

産業競争力強化法、エネルギー供給構造高度化法の施行（余剰設備の再編）

当社が得意とする工事分野の顧客、すなわち石油、ガス、電力、製鉄や素材産業のプラント設備再編が増加します。

エネルギー使用合理化等事業者支援補助金の増額

平成27年度410億円→平成28年度1,260億円(概算要求額)

プラント解体市場（特に当社の得意分野）の拡大

2

建設業の許可業種区分に「解体工事」新設

国土交通省は43年ぶりに許可業種区分を見直します。

「解体工事」は専門の業種となり、1件500万円以上の解体工事を実施する場合は許可取得が必要になります。

※平成28年6月より3ヶ年かけて順次移行され、このことにより解体工事の安全施工管理体制が強化されます。

解体工事に求められる品質が高くなり、ますます当社の強みを活かせると予想されます

顧客業界動向

電力

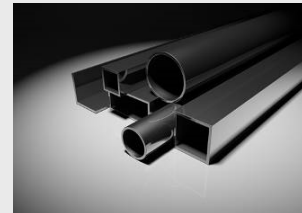


火力発電所の老朽化は顕著なものとなっています。さらに「環境問題」と「発電効率」の観点から、今後、火力発電所の解体は劇的に増加するものと考えられます。
(ボイラー、煙突、油タンクの解体増)

「**環境問題**」の観点からは、風力、水力発電等の解体需要も増加すると考えられます。

「**発電効率**」の観点からは、コージェネレーションや再生可能エネルギー等の利用が促進され、**発電設備のリプレイス**が増加するものと考えられます。

製鉄



製造業の海外移転に伴い、**合併や再編**の渦中にあります。「生産量の増強」から「**余剰設備の合理化**」に投資が変化しています。

石油・石化



省エネ化が進み、国内需要は減少、石油各社は精製能力を削減しています。

また、**エネルギー供給構造高度化法**による供給能力適正化が進められています。

ガス



球形ガスホルダーは、ガス発生量を細かく調整できるようになったこと、配管等が高圧に耐える品質になったことにより、**地下配管に移行**しています。

成長戦略：持続的な成長モデル

専門性の高い技術を提供し、事業競争力を高めていきます。

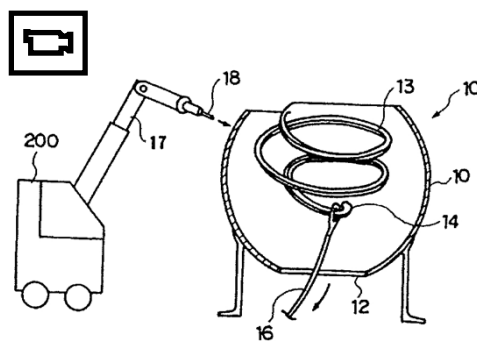


技術力の向上

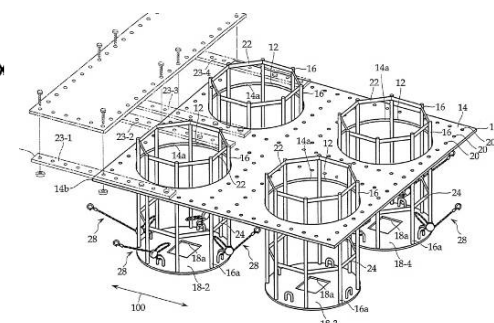
① 特許工法

特許工法を使用した解体方法を提案し、実用化に繋げていきます。

取得済み特許	申請中
大型球形貯槽の解体方法及びこれに用いるジャッキ機構	集合型煙突解体用足場装置およびその装置を用いた集合形煙突の解体方法 (国際出願)
大型球形貯槽の切断解体方法 (リンゴ皮むき工法) ※図1	大型貯槽の解体方法 (リンゴ皮むき工法の改良特許)
搭状構築物の解体工法及び装置	発電用風車の倒し方法 (国際出願)
煙突解体用足場装置及びその装置を用いた煙突解体方法 ※図2	Method for disassembling a boiler
ボイラの解体方法	
ボイラ及び支持構造物の解体方法	共同出願 申請中
熱風炉の蓄熱炉の倒し方法	磁気吸着車両の群移動体 (ロボット群龍)
鉄塔支持形煙突構造物の倒し方法	
ボイラ解体方法	
ボイラの解体方法	
大型貯槽の切断解体方法	
大型貯槽の解体方法	
ゴライアスクレーンの解体方法	
H鋼支持システム及びそれを用いた建造物の解体方法	



※図1 大型球形貯槽の切断解体方法 (リンゴ皮むき工法)



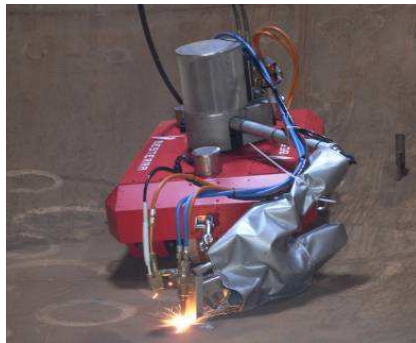
※図2 煙突解体用足場装置及びその装置を用いた煙突解体方法

技術力の向上

② ロボット工法

さらなる安全性向上のため、溶断ロボットを開発し、工事実績を重ねています。

- ・ 「りんご☆スター」の新アタッチメント開発による用途拡大
- ・ 東京工業大学との産学連携による「群龍」(群移動体型ロボット)の開発



りんご☆スター



群龍



環境対策工事の強化

③ 環境ソリューション

屋外屋内を問わず、**無火気工法・準無火気工法**を得意としています。切断、小切り施工可能です。

モーター焼きつき対策や刃を再生利用するなどの工夫で業界常識を超える厚みを切る事が可能となりました。



当社による分割・解体までの工程

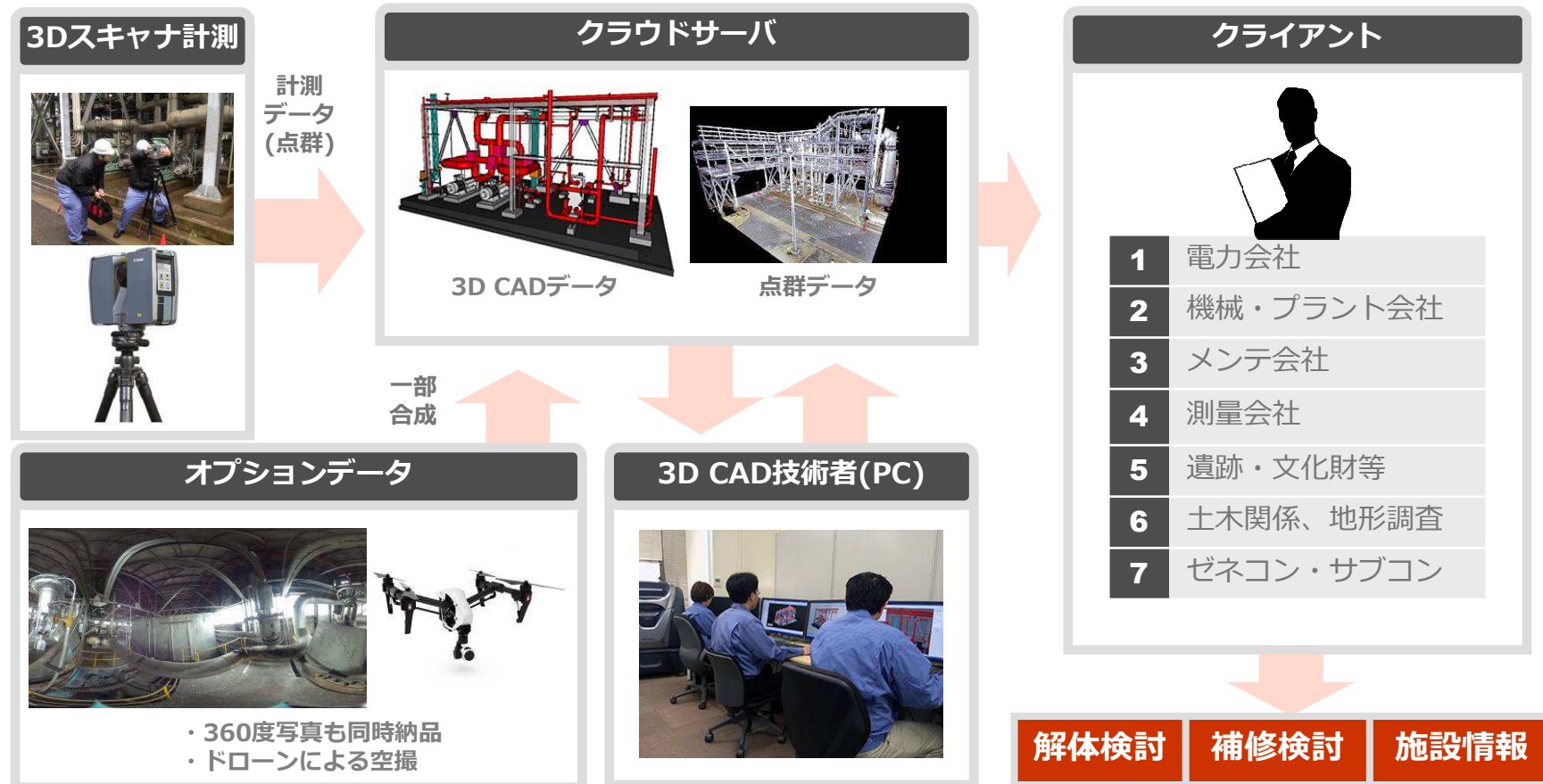
<p>1 現地確認</p> <p>経験豊かなスタッフが、現地を確認・調査いたします。 ※狭小な場所・地下・管理された部屋など、あらゆる場所から撤去する方法を現地にて考察します。</p>	<p>2 計画・お見積もり</p> <p>お客様のご要望を法令に沿って、弊社専門スタッフが検討し、的確なご提案・お見積もりをご提出いたします。</p>	<p>3 解体養生</p> <p>必要に応じて「密閉化」などの措置を講じます。 ※法令順守かつ環境対策も同時に行います。</p>
<p>4 事前・付帯作業</p> <ul style="list-style-type: none"> 油抜き 遮断機ガス抜き (FS-6) 閉所での吊治具仮設 通路養生 etc 	<p>5 分割・解体作業 (運搬用容器への封入作業)</p> <p>弊社では一切の火気を使わない工法で迅速かつ安全に解体が行えます。</p>	

次世代のプラント解体へ (事業構造の進化)

④ 3D計測 BIM・CIM



新技術も積極導入することで、情報の「見える化」、「共有化」を推進。トータルマネジメントの強化へ繋げていきます。



トータルマネジメントの強化

⑤ HRソリューション

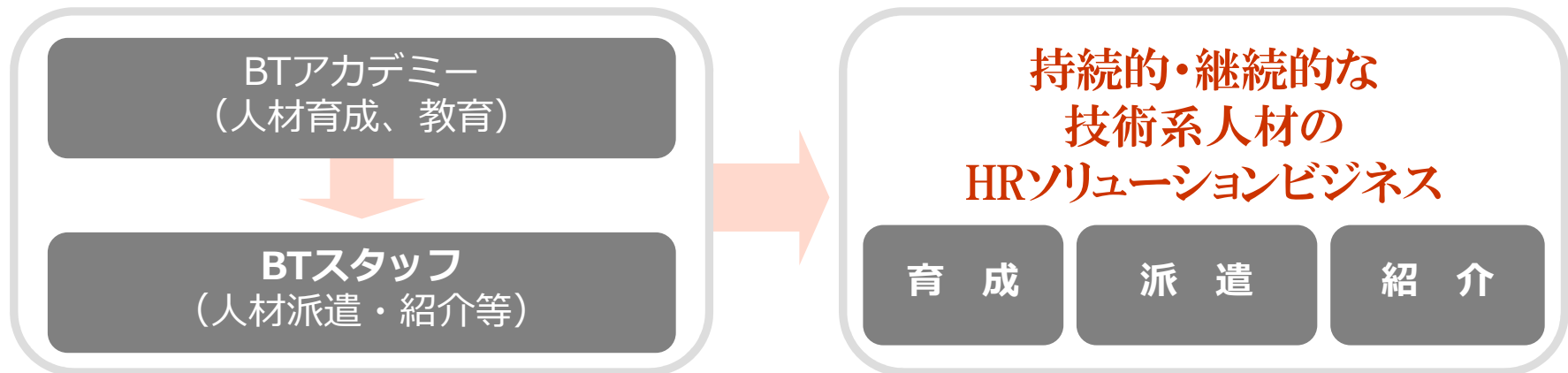
技術労働者不足に対応することを新たな事業機会と捉え、人材サービスを展開します。

背景

少子化、技術系人材の獲得難

ソリューション

- ① BTスタッフ：人材派遣・紹介及び紹介予定派遣
- ② BTアカデミー：施工管理職の育成
- ③ 人材の活用：人材の育成(教育)から紹介まで



3年後のビジネス領域

プラント解体周辺分野へのサービスを拡大し、プラント解体トータルマネジメントの強化を目指します。



BT STAFF

人材サービス



3D計測 BIM・CIM

